迷宮世界の
魔物使い
まものつかい
3
ばっどぇんど!
FOR
R18
ADULT ONLY

「あやや、もう起きちゃいました？」
下腹部の快感で目覚めた。
ギルドで出された飲み物を飲んだ後の記憶がない。

「うーん、意外と早かったですねえ・・
まあいいです、どうせしばらく動けないでしょうし…」
既に何度か射精させられた後だったのか、
彼女の顔や胸のあたりに白濁した液が大量に滴っていた。

「むむ、このおちんちんぜんぜんヘタレませんね…
じゃあ今度はこっちで出してください。」
あれから2度達し、
3度目の射精の直前で通り道を尻尾で締め付けられた。
「もう我慢できません…大丈夫、キスしなきゃ浮気じゃないです。
セーフですセー…んうっ！」
根元をきつく締められた男性器は射精を許されないまま、
彼女の膣内に飲み込まれた。

「久しぶりですからきつい…じゃあ行きますよー？
はい、だしちゃえーー♪」
唐突に開放された通り道に精液が勢いよく流れていく。
痛みと快感が下腹部を暴れまわる。
「うーん、お口で飲むのもいいですけど、
こっちもまた格別ですねえ。ふふっ、まだ出てますよ
そんなに気持ちいいですかー？」

「ほらほら、さすがに限界ですか？えい、えいっ♪」
長い射精を終えたが、
その余韻に浸る間を与えんとばかりに彼女はその尻尾で攻める。
…大きな尻と尻尾で扱かれているうちに、再び硬さを取り戻した。
「えへへ、知ってますよー、
さっきのがはじめてだったんですよね。
それじゃ、もう少し休んだらまた頑張ってもらいますよ？」

「あれっ、もう動けるんで…
やんっ、ちょ、おとなしくしてください♪」
まだ出し足りない、そう思った瞬間体が動いた。
同時に男根が、白濁した塊を解き放つ。
「あんっ、も～、勿体ない。
精子の無駄じゃないですか、まだ入ってないのにぃ」
無駄になったらなまた作ればいい。
それに…まだまだ萎えそうにないのだ…

「あんっ、たくましいですね、さすがっ、冒険者！」
女を机に押し付け、突く。後ろからがむしゃらに、突く。
目の前の雌を孕ませる、その一心でひたすら突き上げる。

「むむ、えっちを、覚えたてのキッズが、んっ、
私を孕まそうとはんっ、ひゃくねんはや…
あっ、でもやっぱり気持ちいいです！セックスサイコー！」

子種を女の中に解き放ちながら、
それでも腰の動きは止められなかった。

「んむっ、んっ、いっぱいでましたねえ。たっぷたぷですよ、私のおなかの中。」
何度出したかわからない。気づけばまた、彼女にのしかかられていた。

「流石に限界ですかねー、うーん、でもちょっと、
久しぶりに火がついちゃったなあどうしよう…お隣に何人かいましたっけえ…」
射精しすぎたせいで体に力が入らない。目の前が、しろく…

湿った音と、うめき声が聞こえる。
再び目が覚めた。
見上げると女は、裸の男たちの一物を弄んでいる。
「あ、やっと起きましたねー、もう少し休んでていいですよ～」
男たちに表情がない。性交のただ中で、
その感情はうかがえない。
「これですか？…まあ普通の人はですね、
私とセックスしてイクとこんな感じになっちゃうんですよねえ」

「あ、ちょっと！その下着高かっ…あんっ」
彼女の下で弄ばれていた男が起き上がり、
乱暴に下着をはぎ取るとおもむろに挿入を始めた。
「んっ、衰え知らずになるのはいいですけどお、あっん、
おバカさんになってしまうのがちょっと…
なっ、んっ、ですよねえんっ」
押さえつけられ乱暴に犯されて、
それすら彼女は楽しんでいるようだ。

「はいはいあなたは一旦停止。
少し休憩挟まないとさすがに死んじゃいますからね…んっ」
女の言葉に横から彼女を犯していた男はぴたりと動きを止めた。
そして女はもう一人の男を押し倒す。

「んっ、いいですねー、結構回復してます。これなら…」
のしかかられ、男性器をしごかれた男は、
表情のないままで射精を続けた。

「あんっ、あなたは休憩ですよって…やんっ、いいっ」
不意に動きを止めていた男が彼女を持ち上げ、再び挿入を始めた。
「おかしいですねっ、しばっ、まじゅつっ、が、弱かったかなっ！」
拒否の言葉とは裏腹に、声色には歓びがある。
男の動きは速度を増していった。

「んふーっ、まだですよー、私は満足してませんから」
動きが鈍くなった男に、
もっと絞り出せと言わんばかりに腰をくねらせ擦り付ける。
目前の乱交を眺めていると、
力尽きたと思っていた下半身に血が集まっていくのがわかった。

「ふふっ、休憩はもういらなそうですね。」
いつの間にか、自身が尻尾で締め上げられていた。
そそり立つそれをみて、嬉しそうに彼女は笑う

「さあ、続きですよ。お人形さんも悪くないですけど、
生きた人間を相手にするのが一番ですねっ」
そう言うと、彼女は嬉しそうに覆いかぶさってきた。

「ーんっ、んっ、あんっ、んっ、いっ、ひっ♪」

汗と精液が入り混じり、薄暗いギルドの空気が澱む。。

女の後ろの穴を穿つ、肉と肉を打ち付ける音に合わせて嬌声が響く。

あれからどれだけ経ったのか。自分は、誰だったか…目の前の女は…

「ふふっ、さすが限界みたいですね。大丈夫、何も心配いりませんよ…」

頭の中に、女の声が小さく響いた。

Monster Master of Labyrinth World

バッドエンド3

ようやくゲームもほぼ完成しましたので、大手を振ってえろ本が出せるというもんです。

フリーゲーム「迷宮世界の魔物使い」、触ってない方、気が向きましたら触っていただけますとありがたく。

奥付

発行：さんぴー。
http://r1020@fc2web.com
著：伊藤隆生(@itoryusei)

発行日:2018/8/12
印刷：同人誌印刷ドットコム　様

事務員カタリナ

カミラ、ラグリントと同期。
からめ手は得意だが、直接戦闘は今一つ。